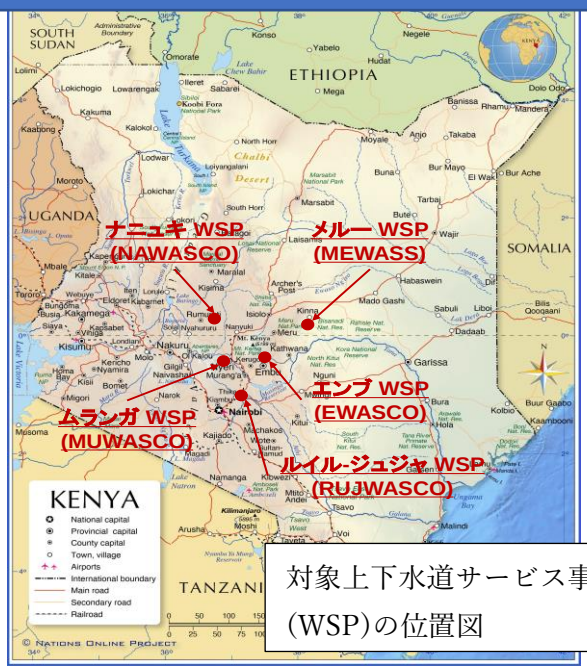
JICA プロジェクトブリーフノート

ケニア国水道事業体の融資可能な事業形成能力強化プロジェクト

No.1 2023 年 8 月



対象上下水道サービス事業体(WSP)の位置図

1. 本事業の背景・水道セクターの課題

1.1 本事業の背景と目的

【本事業の背景】

ケニア国では、人口増加と経済・社会開発に伴う水需要の増加に対して、上水道サービスの拡充が追い付いておらず、2020/21 年度の都市部の水道普及率は 60%にとどまっている。ケニア政府は SDGs のゴール 6 とリンクさせて、2030 年までに全ての住民に安全な水を供給することを「国家開発計画（Kenya Vision 2030）」の目標に掲げている。しかしながら、水セクターに配賦できる公的資金は、上記の目標達成に必要な開発資金の 4 割程度と言われており、目標達成のためには、上水道サービスの改善及び拡張のための資金源を公的資金以外からも確保することが必要な状況である。

【本事業の目的】

本事業（開発計画調査型技術協力）の目的は、上下水道サービス事業体（WSP）が公的資金のみに依存せず、自立的に資金調達ができるよう、WSP の市中銀行や国際機関等の審査に耐えうる事業計画策定及び審査関連対応のための能力強化を図ることである。

1.2 ケニア国の水道セクターの課題

JICA のグローバル・アジェンダ「持続可能な水資源の確保と水供給」に含まれるクラスター事業戦略「水道事業体成長支援」では、図 1.1 に示すように、水道の整備を進める上で、「投資活動（施設整備）」⇒「顧客数増加」⇒「料金収入拡大」⇒「経営・財務改善」⇒「投資活動（施設整備）」の成長スパイラルの実現が重要であるとしている。

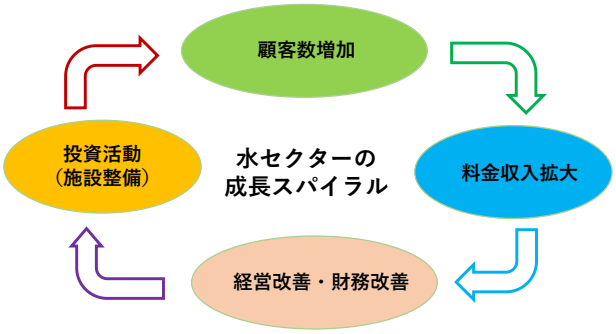


図 1.1　水道セクターの成長スパイラル

この成長スパイラルを実現するためのケニア国の水道セクターの主な課題と対応状況は、下記の通りである。

1）現在、多くの WSP では、水道料金収入のほぼ全額が O&M 費に使用されており、十分な投資を行う余裕がない。顧客数増加・料金収入拡大が、投資活動の促進につながるように、給水エリアの拡大、水道料金値上げの検討や、無収水率削減の活動が行われている。

2）公的資金が不足しており、それを補う民間資金導入促進のため、ブレンデッド・ファイナンス、キャピタル・マーケット・ファイナンスなど新たな資金調達スキームの検討が行われている。

3）WSP の民間資金へのアクセスを拡大すべく、必要な事業計画の策定や金融機関との交渉能力を向上するためのドナー支援が行われている。

JICA はこれまでに、資金協力により投資活動（施設整備）の促進を行い、さらに、無収水削減対策の技術協力プロジェクトにより WSP の経営・財務改善の支援等を行ってきた。本事業は、WSP の商業融資等の民間資金活用の推進を支援するものである。

2. 問題解決のためのアプローチ

2.1 本事業で期待される成果と実施体制

【プロジェクトで期待される成果】

本事業では、表紙の図に示す、ルイル-ジュジャ、エンブ、ムランガ、ナニュキ、メルーの５つの水道事業体（WSP）を対象とした活動を通して、下記に示す４つの成果を達成する。

成果１：パイロット水道事業体における融資可能な事業計画策定の能力が向上する。

成果２：パイロット水道事業体における融資可能な事業の資金提供元との交渉能力が向上する。

成果３：水道事業監督局（WASREB）により融資可能な事業計画策定ガイドラインが策定され、WSP および関係機関に活用される。

成果４：ブレンデッド・ファイナンス（Blended finance）または商業融資（Commercial loan）、キャピタル・マーケット・ファイナンス（Capital market finance）による水道事業体への融資促進の課題が明らかになり、水・衛生・灌漑省（MWSI）により水道事業体への融資促進に係るアクションプランが作成される。

本事業で検討を行う３つの資金源について

本事業では、民間資金を活用する方法として、以下３つの資金源の検討を行う。

・ブレンデッド・ファイナンス（Blended finance）：政府資金やドナー資金と民間資金を組み合わせることにより、金利や貸付期間等の融資条件を緩和することで民間資金の供給を促進するもの。

・商業融資（Commercial loan）：銀行から直接融資を受け、政府資金やドナー資金を含まない純粋な民間資金を利用するもの。

・キャピタル・マーケット・ファイナンス（Capital market finance）：債券等の発行などにより資本市場から調達した資金を元本とした融資。

【各成果に係る活動の実施体制】

本事業で４つの成果を出すための実施体制を図 2.1 に示す。

1) 成果１、成果２

５つのパイロット WSP による事業計画の作成、詳細設計、銀行との交渉等の業務を JICA コンサルタントチーム（JCT）がサポートし、その活動を通して、パイロット WSP の能力を強化する。

2) 成果３

成果１及び成果２に係る活動を通して得られた知見、教訓を他の WSP と共有するために、WASREB によるガイドライン作成等の支援を行う。

3) 成果 4

WSP への融資促進にあたって、WSP の能力強化だけでは解決できない課題を抽出し、MWSI のアクションプランの取りまとめを支援する。

【実施期間】

本事業の第 1 期は詳細計画作成フェーズとして、対象となるパイロット WSP 及び対象プロジェクトの選定と本事業の活動内容の詳細検討を行った。第 2 期、第 3 期はプロジェクト実施フェーズとして、パイロット WSP、MWSI、WASREB との活動を行う予定である。スケジュールは以下のとおり。

第 1 期　2022 年 2 月から 2022 年 12 月

第 2 期　2023 年 1 月から 2024 年 2 月

第 3 期　2024 年 3 月から 2025 年 11 月

【合同調整委員会(JCC)の設立】

本事業を円滑に実施するため、下記の組織のメンバーで構成される合同調整委員会を設立し、定期的にプロジェクトの進捗や課題を関係者間で確認する体制を整えている。

表 2.1 合同調整委員会の構成組織

No.	組織名（略語）
1)	水・衛生・灌漑省 (MWSI)
2)	ケニア水道事業監督局 (WASREB)
3)	水道事業体協会 (WASPA)
4)	JICA コンサルタントチーム (JCT)
5)	上下水道サービス事業体 (WSP) （ルイル-ジュジャ WSP、エンブ WSP、ムランガ WSP、ナニュキ WSP、メルー WSP）

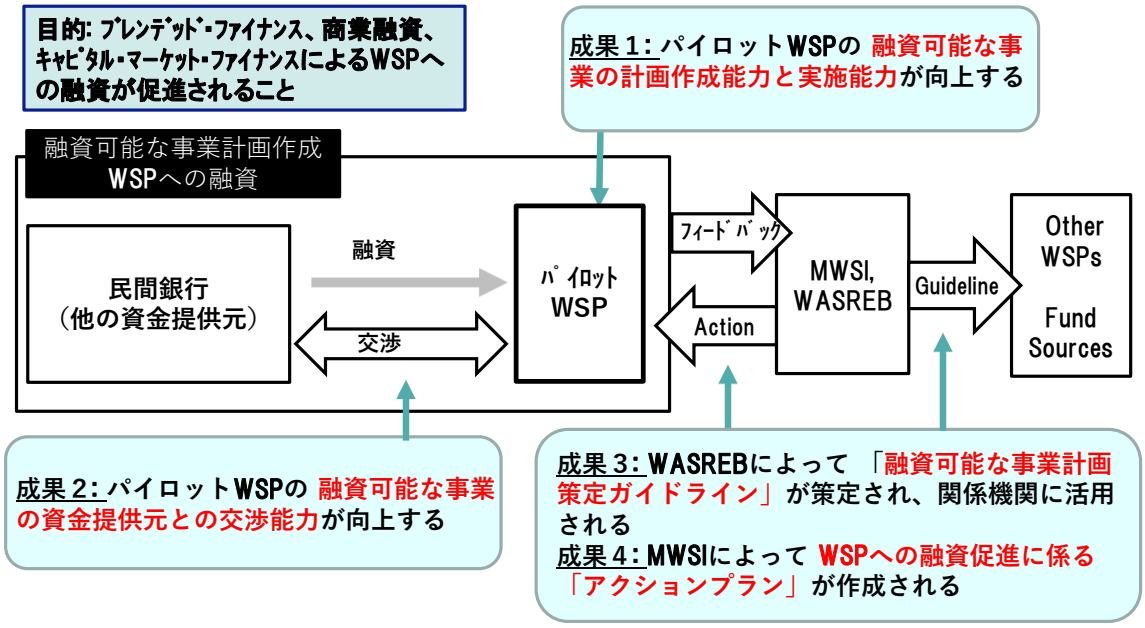


図 2.1　本事業の実施体制

2.2 対象 WSP と対象プロジェクトの選定

第 1 期の詳細計画策定フェーズでは、5 つのパイロット WSP 及び融資対象プロジェクトを選定するにあたり、まず 13 の WSP を候補として、各 WSP の現状及び対象プロジェクトについて調査を行った。

【候補 13WSP の選定】

比較的財務状態の良い WSP を選ぶため、WASREB の信用格付けが BB 以上の上位 30 位以内で、かつ O&M 回収率が 110%以上の WSP から、13 の WSP を選出した（表 2.2）。なお、ケニア国に 9 つある水道開発機構（WWDA）それぞれが管轄する WSP を最低 1 つは含めた。

【対象 5 WSP と対象プロジェクトの選定】

対象 WSP の選定条件

13 の WSP から、以下の条件を満たす WSP を抽出した結果、５つの WSP に絞られた。

- 比較的金利の高い商業融資のみが対象となるため、金利などの条件を理解したうえで、民間銀行から融資を受ける意思があること。
- 財務安全性が低い場合には民間銀行からの融資を受けることが難しいため、財務安全性（流動比率や自己資本比率等を勘案）が比較的高いこと。

対象プロジェクトの選定

WSP が銀行からの融資を希望する案件の中から、以下の条件に当てはまる案件は除外した。

- 資金源が既に決まっている、あるいは融資の申請を既に行っている案件
- 内容が明確でない案件
- WSP が融資を受けることができると思われる金額の目安（売上規模や過去の利益水準、資産・負債の状況を総合的に勘案することにより概算）を大きく超えている案件

検討の結果、表 2.3 に記載されている 5 つの WSP とプロジェクトを、成果 1、2 の活動の対象とした。これら選定された WSP のうち、

- ルイル-ジュジャ, エンブ, ムランガの３つの WSP は、提案事業が明確であったため、事業計画の確定後、詳細設計と銀行との融資交渉を、第２期から始めることとなった。
- ナニュキ, メルーの２つの WSP は、提案事業が不明確であるため、各 WSP の総合事業実施計画を作成した後、融資可能な事業計画を選定する。詳細設計と銀行との融資交渉は、第３期に行う予定である。

表 2.2 当初候補の 13WSP

No.	管轄の水道開発機構	上下水道ｻｰﾋﾞｽ事業体
1	Tana	エンブ
2		メルー
3		ガガカ
4	Athi	ムランガ
5		ルイル-ジュジャ
6	Tanathi	マボコ
7	Central Rift Valley	ナクル
8		ナニュキ
9	North Rift Valley	エルドレッド
10	Lake Victoria South	キスム
11	Lake Victoria North	ゾイア
12	Northern	イシオロ
13	Coast	モンバサ

表 2.3　選定された対象 WSP と対象プロジェクト

上下水道サービス事業体	対象プロジェクト	事業費	本事業での活動	
			2023-2024	2024-2025
ルイル-ジュジャ	マタアギ・ルイルバイパス地域の送配水管の拡張・更新事業	約 2.2 億 Ksh（約 2.2 億円）	BPP + F/A + D/D	—
ムランガ	キハル水道スキーム（導水管、浄水場）建設事業	約 0.9 億 Ksh（約 0.9 億円）	BPP + F/A + D/D	—
エンブ	新カニュアンボラ水道スキーム建設事業	約 3.0 億 Ksh（約 3.0 億円）	BPP + F/A + D/D	—
ナニュキ	ナニュキ総合事業実施計画	融資対象プロジェクトは未定	OPIP + BPP	F/A + D/D
メルー	メルー 総合事業実施計画	融資対象プロジェクトは未定	—	OPIP + BPP + F/A + D/D

OPIP: 総合事業実施計画: WSP による 100%給水達成のための事業実施計画の作成
BPP: 融資可能な事業計画： 融資可能な事業の概要説明のためのコンセプトノート の作成
D/D: 詳細設計： 詳細設計図面、BOQ、積算、入札図書作成等の作業
F/A: 財務アドバイス：　ローン申請に必要な書類の作成や銀行との交渉支援

2.3 成果１に関する課題と対処方法

成果１において、JICA コンサルタントチーム(JCT)では５つのパイロット WSP において、「融資可能な事業計画」を作成し、詳細設計の実施、工事入札図書の作成を行う。

ここでの「融資可能な事業」とは、WSP が商業融資（銀行ローン）を受けて事業を実施し、借り入れたローンの返済が可能と判断できる事業のことである。WSP の事業規模や現状の水道料金水準を勘案すると、規模の大きな融資は望めないため、既存の水道システムの一部のみの修復、拡張を提案している。

表 2.4　成果１に係る課題/方針/成果品

【課題】
• WSP に案件形成、詳細設計、入札図書作成等を実施した経験が乏しく、提案プロジェクトの内容や事業費の積算、さらに優先度などの再検討が必要な場合もある。 • 多額の融資を受けられないため、融資対象事業で実施できるのは、水道システムの一部の改善、拡張のみとなる。このため、融資対象の施設の拡張・修復だけで、期待する給水量の増加等の効果が得られるとは限らない。
【方針】
• JCT と WSP は共同で事業計画の技術検討を行った後、詳細設計、入札図書の作成を行うローカルコンサルタントへの業務委託作業と監理を共同で行う。 • 融資対象事業の技術評価だけでなく、水道システム全体が機能するように、融資対象外の水道施設の機能評価や、拡張・改修の必要性についても確認を行う。 • 融資対象事業が確定していないナニュキ, メルーでは、融資対象事業の形成作業を含む、総合事業実施計画(OPIP)の作成を行う。
【想定される成果品】
• コンセプトノート（対象プロジェクトの技術面、財務面の概要を示す書類。銀行との融資交渉開始段階で用いられる他、WSP 内での確認、地方政府からの承認でも利用される） • 「ローカルコンサルタント選定のための入札図書」「コンサルタント契約書」「工事入札図書（詳細設計図面、BOQ、工事契約書案等を含む） • JCT と WSP が実施した業務内容、支援内容の記録

2.4 成果２に関する課題と対処方法

成果２は、成果１で形成した「融資可能な事業」の実施に必要な資金を得るため、資金提供元との交渉を支援し、資金獲得のための WSP の交渉能力を向上させることが目的である。現在、ケニア国では、ブレンデッド・ファイナンスとして、KfW による Aid on Delivery（商業融資の返済の一部をドナーが援助するプログラム）が小規模ながら利用可能であったが、現在実施中のスキームで活動を終える予定である。またキャピタル・マーケット・ファイナンスがオランダ政府の援助で実施準備が行われたこともあるが、具体的なスキームの検討には至っていない状況である。現時点で WSP が利用可能な資金調達手段は、WSP の収益性に比して金利水準が非常に高く、かつ、担保・保証に関する要求レベルが高い市中銀行からの借入に概ね限定されていることから、本事業では商業融資（市中銀行からの借入）のみをターゲットとして WSP による資金調達の支援を行っている。

表 2.5　成果２に係る課題/方針/成果品

【課題】
• 長期かつ多額の設備投資資金を WSP 自身が主導して調達した経験が無いため、銀行へのアプローチを行うための知見がない。 • 中長期の財務計画を有していないため、設備資金調達が将来事業に与えるインパクトを想定することができず、返済期間や金利水準など、目指すべき基礎的な融資条件を設定できない。そのため、銀行から提示された融資条件に対するカウンタープロポーザルを自ら検討することができない。
【方針】
• これまでの調査で特定した、水道セクターへの融資に特に関心のある市中銀行を必要に応じて WSP に紹介するとともに、銀行が初期的に必要とする情報をまとめるための支援を行う。 • 本件の対象プロジェクトによる事業実施及び必要資金の調達によるキャッシュフローが各 WSP の将来キャッシュフローにどのような影響を与えるかを可視化し、どのような融資条件であれば受け入れ可能かを判断するための材料とすべく、返済予定期間に渡る財務シ

ミュレーションの実施をサポートする。
【想定される成果品】
• コンセプトノート • 財務シミュレーション • 融資条件の交渉資料

2.5 成果３に関する課題と対処方法

成果３では、「WASREB により融資可能な事業計画策定ガイドラインが策定され、WSP および関係機関に活用される」ことを目指す。具体的には、WASREB は成果１と成果２で得られた教訓及び知見を踏まえて、WSP が返済可能な融資額の水準を把握したうえで、その範囲内で採算性の高い事業計画を策定できるように、ケニア国全ての WSP で広く活用できるガイドライン作成等の活動を行うことが目的である。

表 2.6　成果 3 に係る課題/方針/成果品

【課題】
• 世銀などの支援によって完成したガイドラインの完成度（品質）は高いが、ガイドラインが完成した 2025 年以降も、WSP への商業融資はほとんど行われていない。また 2015 年以降、ガイドラインの内容更新は行われていない。 • WSP の「事業計画策定能力」「資金提供元との交渉能力」の向上のため施策の検討が、まだ十分に行われていない。
【方針】
• 成果１，成果２に関わる活動を通して得た知見、教訓を基に、WSP の「事業計画策定能力」「資金提供元との交渉能力向上」のために、必要な課題を把握する。 • 課題解決のために、既存のガイドラインに加えて何が必要かの検討を行う。
【想定される成果品】
• 事業計画策定ガイドライン • セミナー等での説明資料

2.6 成果４に関する課題と対処方法

成果４の活動は、成果１，２の結果や他ドナーの活動を通じて、ブレンデッド・ファイナンスまたは商業融資、キャピタル・マーケット・ファイナンスによる WSP への融資促進の課題が整理され、MWSI によって、WSP への融資促進のためのアクションプランが作成されることである。

成果１、２、３の活動による WSP の能力強化以外に必要とされる WSP への融資促進のための施策を明確にしたうえで、MWSI が取るべきアクションプランを作成する。

表 2.7　成果 4 に係る課題/方針/成果品

【課題】
• ブレンデッド・ファイナンスは、利用可能なスキームが限定的であり、キャピタル・マーケット・ファイナンスは現在ケニア国では利用可能なスキームが無い状況である。 • 一方、金利の高い商業融資だけでは、WSP が必要としている十分な融資を受けることは難しいと考えられる。 • 水道料金水準が低いため、水道プロジェクトを高金利の資金で実施した場合、財務的にフィージブルにならない。 • MWSI は、既に多くの課題に取り組み、成果をあげているが、その活動内容と計画をまとめて、情報共有することができていない。
【方針】
• 現在、MWSI が検討している、比較的低金利のブレンデッド・ファイナンスのスキーム、「Water　Sector Loan Facility」、またキャピタル・マーケット・ファイナンスを利用できるようにするための活動の進捗状況や識別された課題を確認し、MWSI としての対応策を検討する。 • 商業融資による WSP への融資促進のための課題を明確にし、対応策を検討する。 • MWSI が既に行っている施策の内容、スケジュールを明確にする。
【想定される成果品】
• WSP への融資促進の課題を踏まえた水・衛生・灌漑省の中期的なアクションプラン

3. アプローチの実践結果

3.1 成果 1

ルイル-ジュジャ, エンブ, ムランガの３つの WSP において融資可能な事業計画の作成、詳細設計、入札図書の作成を行い、ナニュキ 、メルーの２つの WSP では融資対象プロジェクトを選定するために、総合事業実施計画の作成を行う予定である。

3.1.1 事業計画の作成と詳細設計の進め方

- WSP の提案事業に対し、WSP 及び JCT で合同技術審査（対象の上水道システムが計画通り機能するかの確認等）を行い、プロジェクトのコンセプトノートを作成。
- WSP による融資可能な事業計画案の作成（融資対象施設だけでなく、水道システム全体が機能するための計画を示す）を指導。
- WSP による詳細設計、入札図書作成を行うローカルコンサルタントの入札業務（価格評価、契約交渉、契約調印）を指導。
- WSP によるローカルコンサルタント業務の監理を指導。

その後、WSP によって工事入札、建設工事が行われる予定である。

1) マタアギ・ルイルバイパス地域の送配水管の拡張・更新事業
(ルイル-ジュジャ WSP: RUJWASCO)

【案件概要】

ルイル-ジュジャ WSP（RUJWASCO）の給水能力は、2021 年時点で約 30,000 m^3/日であったが、2022 年に Karimenu Dam プロジェクト（ダム、導水管、浄水場の新設: : 浄水能力 73,000m^3/日 ）が完成し、ルイル-ジュジャ WSP に、新たに 40,000 m^3/日の水を供給することができるようになった。商業融資で建設予定のプロジェクトは、この 40,000 m^3/日のうちの約 15,000m^3/日を、水不足に悩む Theta ward と Gatongora ward に送水するための送水管、配水本管を建設するプロジェクトである。

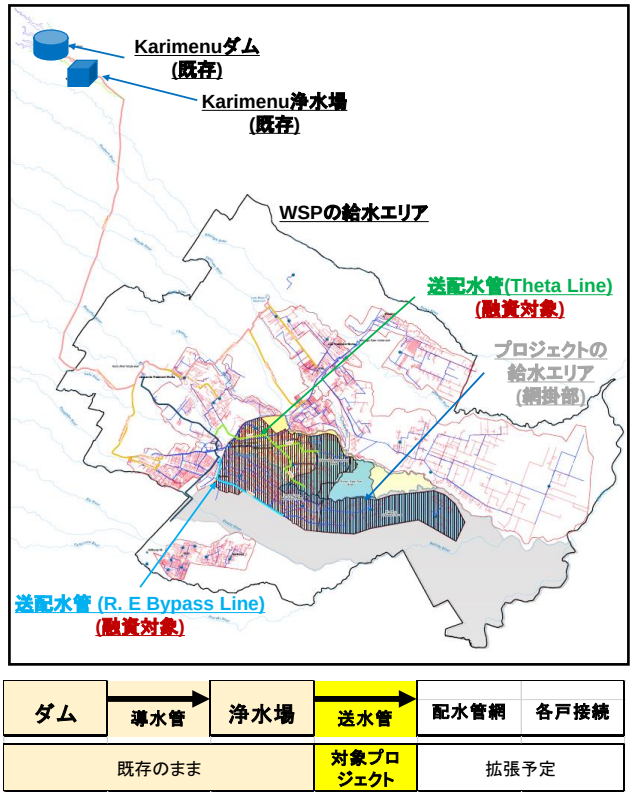


図 3.1 RUJWASCO の対象プロジェクト

【融資対象施設と対象外施設】

商業融資によって建設予定の施設は、送配水管のみで、下記の通り。

- 送水管 2.8 km (口径 400mm) と 3.7 km (口径 315mm) の新設
- 配水本管 5km (口径 355mm)の新設
- 配水管 8.5Km (口径 255mm)の更新

商業融資対象外の施設は下記の通り。

- 既存のダム、導水管、浄水場（WWDA による建設）
- 既存の配水施設、今後拡張する配水施設（WSP の自己資金を想定）

Karimenu ダム	給水エリア

写真-1 対象地域の現状（ルイル-ジュジャ）

【活動内容と進捗】

- RUJWASCO と共同で技術課題の確認を実施後、RUJWASCO によるコンセプトノートの作成を指導。
- ローカルコンサルタントによる詳細設計と工事入札図書作成のための RUJWASCO による業務指示書の作成を指導。
- 合同入札評価委員会を設立し、RUJWASCO によるコンサルタント選定のための入札の実施（技術評価、価格評価、契約交渉、契約調印）を指導。

【今後の予定】

- RUJWASCO によるローカルコンサルタント業務の監理を指導する。詳細設計、工事入札図書は 2023 年 10 月に完成予定。現時点では工事着工 2024 年 1 月、工事完成 7 月を目指している。

【懸案事項】

- 本プロジェクト完成後に送水する水量全てを配水するためには配水管網の拡張が必要である。
- 既存の Karimenu ダムと浄水場の建設は、中央政府による借入を利用して WWDA により実施されたとのことであるが、これに関連するローンの返済負担を RUJWASCO に求めるかどうかが議論されている。

2) 新カニュアンボラ水道スキーム建設事業 (エンブ WSP: EWASCO)

【案件概要】

エンブ WSP（EWASCO）の上水道システムには、Mukangu スキームと Kanyuambora スキームの２つのシステムがあり、融資対象となる Kanyuambora スキームでは、現在、簡易浄水施設を採用し、4,000 m^3/日の水を給水しているが、河川水の濁度が高くなる雨天時には水質基準を満たせない。本プロジェクトでは、雨天時の濁度にも対応できる、処理能力 11,000 m^3/日の浄水場を新設するとともに、送配水システムを拡張し 11,000 m^3/日 の水が給水できるシステムを構築する。

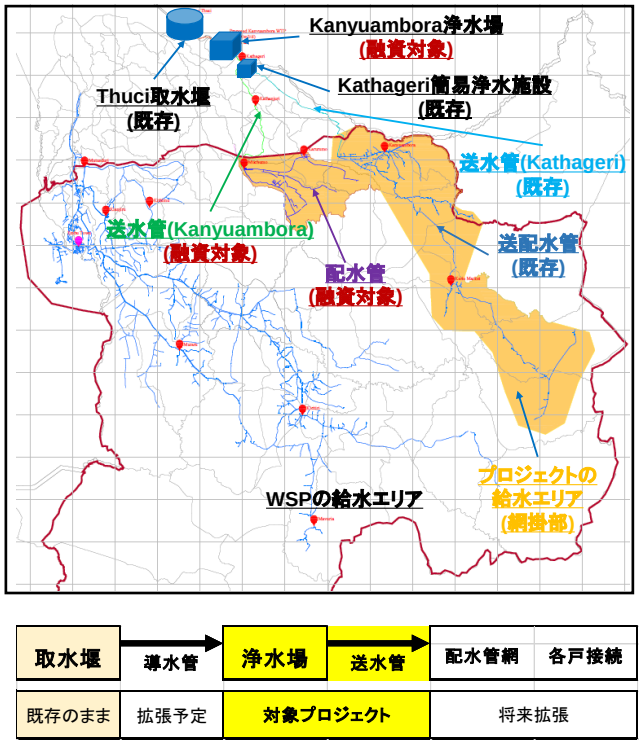


図 3.2 EWASCO の対象プロジェクト

【融資対象と対象外施設】

商業融資の対象となる施設は、浄水場と導水管で、下記の通りである。

- 浄水場（能力: 11,000 m^3/日)の建設（この施設の建設によって、既存地域への 7,000 m^3/日の給水が可能になる）
- 新規給水エリアへの 4,000 m^3/日給水のため、送水管 15 km（口径 225mm）の新設と、配水管 45 km（口径 32～160 mm）の新設。

融資対象外の施設は以下のとおりである。

- 既存の取水堰（今後も利用可能）
- 導水管の拡張と一部配水施設の拡張（WSP の自己資金で実施予定）

Thuci 取水口	Kathageri 簡易浄水場

写真-2 対象域の現状（エンブ）

【活動内容と進捗】

- EWASCO と共同で対象プロジェクトの概略技術評価を実施。
- 提案プロジェクトにおいて一部技術的に妥当性が不明瞭な計画であったため、EWASCO と協議の上、修正。その後 EWASCO によるコンセプトノート作成を指導。
- EWASCO による概略設計、詳細設計、入札図書作成に関わる業務指示書作成、ローカルコンサルタントの入札業務（技術評価、価格評価、契約交渉、契約調印）を指導。

【今後の予定】

- ローカルコンサルタント業務の監理、詳細設計、工事入札図書は 2024 年 1 月に完成の予定。現時点では、工事着工 2024 年 7 月、工事完成 2026 年 1 月を目指している。

【主な課題と対応】

- EWASCO が自己資金で行う予定の導水管路等で比較検討が必要なため、最初にローカルコンサルタントが概略設計を行ったうえで、比較検討を行うことになった。なお、導水管の工事は EWASCO が自己資金で行う予定である。

3) キアワンベウ浄水場への導水量増強事業 (ムランガ WSP: MUWASCO)

【案件概要】

ムランガ WSP（MUWASCO）が提案する「Kiharu 浄水場。導水施設の建設事業」と「Kiawambeu 浄水場への新規導水管建設事業」の施設計画と事業費の再確認を行った結果、2 案件の事業費は MUWASCO の予算 1.5 億Ksh (約 1.5 億円)を大きく上回ることが判明した。予算に合わせたスコープカットの検討も行ったが、期待する効果が得られないため、EWASCO はこの 2 案件の実施を断念し、現在、「Kiawambeu 浄水場への既存導水管の更新事業」の案件形成を行っている。

3.1.2 総合事業実施計画策定調査の進め方

【予定される作業の概要】

ナニュキ WSP（NAWASCO）及びメルー WSP（MEWASS）の対象地域において、2030 年までの水需要を満たす施設計画と事業費を明らかにしたうえで、総合事業実施計画を作成する。下記の作業を行う予定である。

1) 既存の施設能力の検証
2) 2030 年までの水需要の確認
3) 各 WSP が立てた事業計画の確認、評価
4) 施設能力と 2030 年水需要のギャップの確認
5) ギャップを埋めるために必要な事業の確認
6) 各 WSP の現在の財務状況を基にした融資可能額の評価
7) 融資可能な事業計画の作成

【NAWASCO での活動状況】

- 現場視察、業務内容確認。自己資金により取水施設を建設予定で、それを取り込んだ計画とする。
- 総合事業実施計画（OPIP）の策定作業は、2023 年 8 月に開始し、2024 年 2 月に完了する予定で、融資可能な事業の案件形成ができれば、2024 年 3 月以降に、詳細設計、工事入札図書の作成手続きを開始する予定である。

【MEWASS での活動状況】

- MEWASS との活動は、2024 年 3 月以降に調査を開始する予定である。

3.2 成果２

当初の予定では、ブレンデッド・ファイナンスまたは商業融資、キャピタル・マーケット・ファイナンスを対象として、融資の可能性を検討する予定であったが、現在、商業融資（市中銀行からの融資）以外は利用できない状況であるため、商業融資に絞った活動を行っている。

【資金提供元の候補となる国際機関や市中銀行、基金の特定】

- 第 1 期において、資金提供元の候補となる国際機関や市中銀行に対してインタビューを実施し、WSP への融資に関する意向、想定される融資条件等を確認して融資可能性のある資金提供元を特定するとともに、African Guarantee Fund 等の保証提供機関に対してもインタビューを実施し、市中銀行が求める第三者による融資保証の可能性があることが確認できた。

【資金提供元との協議】

1) ターゲット金融機関の選定
ターゲットとなる金融機関（市中銀行）は WSP のメインバンクや既存取引先を中心に選定されたが、必要に応じて、第 1 期の調査結果に基づき、WSP への融資に意欲的な市中銀行を WSP に紹介した。

2) コンセプトノートの作成
市中銀行へのサウンディングのために必要となる事業概要やコスト見積、希望する融資条件をまとめたコンセプトノートの作成を支援した。

3) 銀行サウンディング
第 2 期で支援対象となるルイル-ジュジャ、エンブ、ムランガのそれぞれについて 3～4 行程度の市中銀行に対するサウンディングを行った。

4) Indicative Term Sheet(ITS)の入手・分析
サウンディングを行った市中銀行から、想定される融資条件の概要をまとめた ITS を入手し、その内容確認や比較分析の支援を行った。

5) 財務シミュレーションの実施
どのような融資条件であれば将来的に返済可能であるかを検討するためにコンサルタントチームが財務シミュレーションのひな形を作成し、各 WSP への作成指導を行った。

カテゴリ	タームシート記載項目	タームシート記載内容（一例）
融資期間に係る要件	Loan Period / Tenure / Tenor	最大10年
	Grace/Moratorium Period	最大1年
銀行への金利支払いに係る要件	Interest rate	14%（元利均等月次返済）
	Guarantee fee	補償金額残高の2.4%/年（African Guarantee Fund : AGF）
担保・保証等に係る要件	Guarantee	融資金額の50%について保証機関（AGF等）による保証
	Cash cover	融資額の30%~50%を融資期間終了まで融資元銀行の専用口座に預金
	First legal charge on fixed asset	担保価値を持つ固定資産に対して融資額の100%を上限に第一担保権を設定
	Floating Debenture over Receivables	売掛債権に対して融資額の100%を上限に管理権を設定
	All assets debenture over fixed assets	全ての固定資産に対して管理権を設定

図 3.3　Indicative Term Sheet の典型例

6) 銀行交渉（資料依頼や質問への対応を含む）
ITS 入手のために銀行から要求される資料提示や質問への対応に関する支援を行った。ITS を入手するまでに銀行から要求される情報は銀行によって異なるが、対象事業からの将来キャッシュフローの見込みや現状の財務関連情報が主たる内容である。また、提示された ITS の分析と財務シミュレーションの結果をもとに対案（カウンタープロポーザル）を準備した上で、銀行交渉を行うことを支援しているが、金利水準と担保・保証の内容が主な交渉のポイントとなっている。

【今後の予定】

今後は ITS の内容を固めるための銀行交渉の継続、その過程における財務シミュレーションのアップデート、ITS の内容について合意した後の正式なローン申込書と必要書類の提示、WSP の役員会や郡政府からの承認取り付け、銀行における審査過程における質問対応、ローン契約内容の確認等に関する支援を行う予定であるが、現時点で認識されている各 WSP の懸案事項は以下のとおりである。

1) ルイル-ジュジャ WSP（RUJWASCO）

RUJWASCO については、ローンの返済原資となるキャッシュフローに比較的余裕があることもあり、ある銀行と ITS の内容について合意間近という状況にある。今後の課題としては、銀行が要求する融資に係る RUJWASCO の役員会承認(Board Resolution)と郡政府の承認を得ることができるかが、早期のローン契約締結に向けた課題として挙げられる。

2) エンブ WSP（EWASCO）

EWASCO については、各銀行と ITS の内容（特に金利水準や担保・保証）について交渉中の段階であり、引き続き合意形成に向けた交渉を継続する必要がある。また、郡政府等の関係者の合意を取り付けることも今後の重要課題として挙げられる。

3) ムランガ WSP（MUWASCO）

MUWASCO についても、ITS の一部取り付けや財務シミュレーションの作成を行ったものの、案件見直しの結果、借入可能額以上に事業費が膨らんだため、MUWASCO の借入余力内で実施できる規模の案件形成を行っている。

3.3 成果３

【活動概要】

成果１，成果２の、コマーシャル・ファイナンスの促進に必要な知見、教訓を、他の WSP とも共有するための活動を行う。ガイドラインの作成やセミナーの開催が予定されているが、具体的な内容は今後検討する。

【進捗】

・コマーシャル・ファイナンスの促進に係る既存ガイドライン（世界銀行の支援による Water Service Provider Toolkit for Commercial Financing of the Water and Sanitation Sector in Kenya, 2015 及び USAID の支援による Guideline on Business Planning, 2019）の内容確認を行った。世銀のガイドラインには、WSP が市中銀行から借入を行う際に事前に理解しておくべき、商業融資に関する基本的な事項（融資実行までのプロセスや必要書類、基本的な用語の説明等）が幅広く記載されているが、2015 年の作成後も、WSP への商業融資はほとんど行われていない。また、2015 年以降の内容も更新は行われていない。

【予定】

・成果１，成果２で得た知見、教訓をもとに、ガイドラインの内容検討を行う。

・2024 年、2025 年にセミナーを開催する。

3.4 成果４

【活動概要】

成果１、２の活動を通して得られた知見を踏まえ、水道事業体への融資促進のために WSP の能力強化に加えて対応が必要な課題を、「融資促進のために計画した融資スキームが実現しない」「WSP の信用力が低い」「WSP にとって商業融資の担保や保証の条件が厳しい」に分けて整理を行った。これに対する MWSI のアクションを列挙し、取り組み状況とスケジュールを確認した。主要なアクションの進捗は下記の通りである。

- 融資促進のため、ブレンデッド・ファイナンスで行う低金利融資スキーム（Water Sector loan Facility）の設立や、新たな資金調達スキームであるキャピタル・マーケット・ファイナンスの実現に向けた活動が行われているが、これらのスキーム設立にはまだ時間がかかる見込みである。
- 運営維持コストや投資コストを回収できる水準の水道料金になっていない WSP が多いが、水道料金設定には郡政府や住民の意向が反映されるため、大幅な料金引き上げは容易ではない。また、MWSI は、WSP による無収水対

策の実施の支援を継続している。

- 過去の中央政府による大規模な設備投資のためのドナー等からのローン（レガシーローン）の整理や中央政府から郡政府に対する水道事業資産の移管に関する検討が進められているものの、レガシーローンの整理については閣議の承認待ちの状態である。

【予定】

- ブレンデッド・ファイナンス、キャピタル・マーケット・ファイナンスの実現に向けた活動のモニタリング。
- 銀行から水道事業体への融資（商業融資）促進にあたって、WSPの能力強化だけでは解決できない課題について、成果１，２の活動を通して得た知見教訓をもとに抽出する。
- 既にMWSIが行っている、水道事業体への融資促進に関わる活動計画の更新とアップデートを行い、MWSI による活動のモニタリングを実施する。

4. 工夫と教訓

【成果１に係る活動における工夫】

1) 水道システム全体を考慮した技術検討

水道システム全体が機能しなくては、料金収入は生まれない。融資対象事業単体でなく、対象となる水道システム（取水から配水まで）の機能強化という観点から技術検討を行った。融資対象でない施設の能力評価や、修復・拡張の必要性についても技術検討を行っている。

2) 各 WSP 内の合同委員会の設置

WSP 毎に、WSP、MWSI、JCT の要員で構成される委員会を設立した。この委員会では、WSP提案事業の技術面の検証とともに、ローカルコンサルタントへの委託業務内容の確定や、入札によるローカルコンサルタント選定等の作業において、スムーズなコミュニケーションの実現と、知見、教訓の共有を図っている。

3) 総合事業実施計画作成の提案

WSPは既存水道システムの問題点を把握できているが、融資可能な事業計画の作成が、適切に行われていない場合がある。総合事業実施計画(OPIP)の作成は当初のスコープには入っていなかったが、WSP全体の事業計画を作成したうえで、融資限度額と優先度を考慮して融資対象事業の策定を行うことが重要であると確認できたため、NAWASCO及びMEWASSではOPIPから作成する。

【成果２に係る活動における工夫】

1) WSP が使いやすい財務モデルの提案

今回の支援対象の WSP はいずれも財務シミュレーション用の財務モデルを自身で作成した経験がないため、できるだけシンプルで使いやすい財務モデルの作成を提案する。

2) 郡政府への説明と承認を得るための支援

各WSPが融資を受けるにあたって、各WSPの役員会と郡政府の承認が不可欠である。役員会の承認には郡政府の意向が大きく働くため、郡政府の理解を得ることは極めて重要である。成果１，２の活動を通して、各 WSP と郡政府のコミュニケーションを図るための支援を行う。

以上